

第5回第2次岡崎市文化振興推進計画策定委員会会議録

1 日時

平成28年11月17日(木) 午後2時 開会 午後4時 閉会

2 場所

岡崎市役所 福社会館 303号室

3 委員

出席者 清水裕之、榊原悟、団野美由紀、柴田剛太郎、渡辺傳次郎
梶田美香、仲村悠希、青木日奈子

欠席者 柏木典子、山田高広

4 事務局

文化芸術部 部長 石川眞澄、文化総務課 課長 野田元陽
文化総務課 主幹 前島豊、主任主査 梅澤秀一、主査 鈴木みどり

5 傍聴人

なし

6 議題

(1) 第2次岡崎市文化振興推進計画 第4章及び5章について

(2) 同 第1章、6章及び7章について

7 議題要旨

委員 施策7の内容に、「社会サービスの提供」とあるが、どのような意味か。

委員 団体の内側だけでなく、団体の外の、市民に広く門戸をあけたような活動をするを指している。(公益的な活動という意味)。今後、文化団体自身も、ますますそのよう活動を行っていくようになるはず。文言は修正。

委員 第4章の具体的施策に、担当課の記載があるが、例えば、そこに「市民会館」や他の文化施設は記載してないがよいか。

- 事務局 (ホールを有する会館施設系の)文化施設の機能分担を検討し、書けるようであれば、第4章の中か、第6章とも関わりが深いので、その中で記載するよう検討する。
- 委員 施策 31 に、文化施設のネットワークの話があるが、本来であれば、その前に、文化施設ごとに役割(=ミッション)の明確化があるべき。追記してほしい。
- 委員 美術館系については、3館のうち、一番重要であり、また市外にも注目度の高い施設は、子ども美術博物館である。
また、施策 12 に芸術家の滞在型制作の話があるが、これについては、経済的な裏付けも必要になるが、そのあたりが示されていない。実現するのかが不明確のまま、記載してあるがどうか。
- 事務局 施策のすべてが、財政的な担保をしているものではなく、これから検討していく内容も含めて記載をしている。問題提起をしたレベルの施策もあり、本計画に記載し、検討していくことで、新しいことに着手していくと考えている。言葉の使い方の点であれば、整理する。
- 委員 施策 8 に市民活動団体の話があるが、本市の場合は、定義があると思う。注釈で追記しないとわかりづらい。
施策 18 は、何の事業を指しているのか。ピンとこない。
- 事務局 施策 8 については、定義を注釈で示す。
施策 18 は、現在ある助成制度の枠組みでは対応できていない、新規の取組みであり、チャレンジ100事業の概念を継承した、市民の企画実施による事業に対し助成する制度の立ち上げを検討するもの。言葉を具体的にし、わかりやすくする。
- 委員 施策 19 について、キュレーターや文化コーディネーターの記載があるが、言葉毎に定義があるため、限定的になっている。それらの言葉をとり、つなげるように整理してほしい。
また、施策 19 が重点プラン1取組1にも記載があってよい。
- 委員 施策 11 とか 13 も、創造スタッフに含まれると思う。重点プラン1取組1に係るのでは。

委員 施策 14 は、どちらかといえば市民のボランティアの話で、11 から 13 まではアーティストの話。施策 14 は、(3)文化とまちをつなぐ人材の育成の方がよいのではないか。

委員 所管部署の違いなどもあるとのことなので、現在の(2)文化創造の担い手となる人材の育成・支援に置いたままとしましょう。

委員 施策 16 と 17 の違いが不明瞭。担当課名に違いがあるので、中身は違うと思うが。

事務局 担当課名について整理します。
施策 17 については、「若い世代のジャズ音楽等への」を「若い世代の文化芸術への」に修正する。

委員 重点 4 取組 3 で外国人居住者の記載があるが、「社会包摂」と「教育」を分けて書いたほうがよい。

委員 全体を通じて、「文化」と「文化芸術」と「芸術文化」の 3 種類の言葉が使われているが、違いが不明確。使い分けはありますか。

事務局 (前後の文脈で齟齬がなければ)文化芸術で統一表記します。

委員 第 6 章に「ミッションを実現するためのスケジュール」とあるが、アクションプランでは誰がやるのか主体を書かないといけない。

第 7 章の数値目標に、市民会館の利用者数(平成 26 年度)とあるが、改修でホール客席数が減少しているが、この数値を基準値として大丈夫か。影響はあると思う。

稼働率や利用率とするのも、あまりよい指標ではない。自主事業の本数などは。

事務局 指標を再考します。

委員 第 1 章の関連計画との図式だが、他の計画同士の関わりがないように見えてしまわないか。

事務局 重なりがでるような図式に変更します。

委員 第1章の策定の趣旨で、UターンだけでなくIターンについても追記すべき。また「ものの豊かさから心の豊かさ」は東日本大震災以前から言われ続けてきていること。表現を少し工夫したらどうか。

委員 重点1取組1に「ノウハウを蓄積する」の記載があるが、指定管理制度を導入している限りは、(協定書で規定できない人間関係の部分もあるので)実際には難しいと思っているが、どうですか。

委員 ある程度は仕方がないと思う。市民が入り込めるような仕組みづくりが必要になってくる。市民・創造スタッフ・技術者・ボランティアが館を支える仕組みに。

委員 武豊町の事例も、NPOさんが約7割の事業を担われている。事例として参考に。

事務局 本年トリエンナーレを実施し、ボランティアのかたに多くお手伝いいただいた。これをよいきかけとして今後につなげたい。

委員 常設の市民スタッフ制度のような方向性になるとよい。

事務局 本日の御意見をもとに、修正していきます。本日は以上です。

午後4時 閉会